

星野学園小学校新聞

星野学園小学校
埼玉県川越市上寺山 216-1
〒350-0826 Tel.049(227)5588

星野学園小学校
Web

www.hoshinogakuenn.ed.jp/hes/

二・三年生宿泊学習

～一泊二日 富士・河口湖自然学習～

六月二十一日(木)・二十二日(金)、富士河口湖で二・三年生「夏の学校」が開校された。日本一高い山として、昔から人々に親しまれてきた富士山。ふもとに広がる河口湖。天気はあいにくの雨ではあったが、雄大な自然の中、充実した二日間を過ごすことで、心の中は快晴となった。



2年生は洞窟探検を行った。暗い洞窟の中で、ライトの明かりを頼りに進んでいく。

二年生は一日目、洞窟探検、樹海散策を行った。ひんやりと涼しい洞窟の中へ、懐中電灯を片手に進んで行った。暗い「天然の冷蔵庫」の中を最初はおそるおそる歩いていった子どもたちも、しばらくすると、壁に触れて手触りを確かめるなど、探検を楽しんでいた。また、奥に辿り着くと、全員で明かりを消し、静かに洞窟内の音に耳を澄ませた。水の滴る音が、ぼつぼつと聴こえてくる。これは、洞窟の外に降る雨音では無い。以前に降った雨が、時間をかけていたに違いない。

二日目はバードコール作りを体験し、クイズを交えながら、鳥の生態系について学習をした。「さえざるのはオスカメスカ」「なぜ鳥はさえざるのか」など、普段何気なく聞いていた鳥の鳴き声の秘密を知った。子どもたちは最終驚きの声をあげ、目を輝かせて興味深々な様子であった。また、バードコールの色々な鳴らし方を教わった。鳴らし方は数十種類あると言う。難しいながらも、子どもたちは熱心に鳴らし方を練習していた。

一方三年生は一日目、バスで富士山の五合目まで行った。本来ならばトレッキングをする予定であったが、荒天のため予定が変更となり、車内でクイズを行った。事前学習が十分に活かされており、みんなが積極的に手を挙げて答えていた。富士山について、より知識を深めることができたに違いない。「走っているバスが揺れるほどの強風だった」と子どもたちは興奮気味に語っていた。バスの中から感じたのであろう。



学年を超えてのレクで、仲良くなった。

二日目は、溶岩染めを体験した。溶かした溶岩を筆につけ、白い布に思いおもいの模様を描いた。「こんな絵を描きました!」と嬉しそうな表情の子どもたち。体験を通して、富士山の自然をより身近に感じることができた。



3年生は、溶岩染めを楽しんだ。

二・三年生夏の学校の楽しみは、自然との触れ合いだけではない。それは、異学年交流である。旅館では学年の枠を越えた部屋割で生活をし、夕食を共にする。夕食では、山梨県の郷土料理であるほうとうをみんなで味わった。また、夕食後の夜の集会でも二学年合同でゲームを楽しんだ。お互いをあだ名で呼び合ったり、すっかり打ち解けた様子であった。三年生が二年生の身支度と直に触れ合ったことで、身を以て実感したことだろう。子どもたちは、一回りも二回りも成長して、帰路に着いた。夏の学校での体験が、これからの学校生活に存分に活かされることを、大いに期待したい。(師岡)

本紙バックナンバーは、HP上で、カラー版で公開されております。ご覧ください。

星野学園小学校のプール

六月四日より、子どもたちの大好きなプールの授業が始まった。どの学年のプールの授業を見ている、子どもたちが楽しそうに活動をしている姿が印象的だ。



何年生になってもプールの授業は楽しみの一つ。

授業を行う場所は、星野学園小学校の自慢の一つ、水深が調節可能で、学年に合わせ授業を行える「床上下可動式室内温水プール」である。屋内プールの利点といえば、天候に左右されずに授業を行える点と、気温・水温を設定できる点であろう。他の小学校では、屋外プールが大半を占めているので、授業が行えるかどうかは、天候次第となってしまう。プールの授業が始まるこの時期は、気温・水温が十分に上がらない、梅雨で雨が降りやすいという二つの障害が、教育現場にあるのが事実である。それを考えると、星野学園小学校の子どもの恵まれた環境で授業を行っていることができています。(佐藤友)

星野学園小学校の休み時間

遊びから見える子どもたちの様子

休み時間は、授業中のイングリッシュや、鉄棒、真剣な表情とは異なり、ブランコなど、様々な友達と無邪気に楽しむ遊具で遊べるのが無防備な素の表情を見魅力である。同じ鬼ごられる場面である。

現在、星野学園小で物として利用するのは、学年ごとに教室、体、自分たちで工夫し育館、遊具場、屋上、中で遊んでいる姿が印象的だ。中庭と体育館が割り当てられ、思い思での定番の遊びは、ボール遊びである。サッカー、バスケットボール、バレーボールなど、所狭しと様々な遊びが展開されている。



中庭ではボールを使ったり、鬼ごっこをしている。

遊具場のうんていも人気スポットの1つ。



新体育館はボール遊びが盛んだ。

また、図書室で読書カード、バスケットボール、バレーボールなど、所狭しと様々な遊びが展開されている。教室の中で過ごす場合、様々な時間の使い方をしている。友達同士でおしゃべりを楽しんだり、読書を楽しむ子も見られる。

自分たちで遊びを考えて楽しく遊ぶことができる、この遊びに対する想像力こそが子どもらしさであると実感する毎日である。

クラブ・委員会

四・五・六年生は毎週火曜日をとても楽しみにしている。なぜなら、委員会・クラブ活動があるからだ。今回は、中でも二つの委員会・クラブの活動に焦点を当てて紹介する。

図書委員会は、七五〇冊を所蔵する星野学園小学校の図書室に開く様々な活動を行っている。普段は、図書室の整備や学級文庫の管理

授業参観

六学年揃ってから初めての授業参観が行われた。来校した人数は五〇〇名超、その規模は過去最大。校内は多くの方で賑わい、子ども、教員ともに身の引き締まる思いだった。

授業は、今年度完成した体育館をはじめとした施設を利用して行われた。教員にとっても、授業内容の最適な活動場所の選択肢が増えたこと



真剣な面持ちで授業に臨んだ。

により、より効果的な教育活動ができるようになったと実感した一日であった。

春の農場体験

毎年六月付近になると、星野学園小学校の低学年の子どもたち、畑や田んぼに出かけ農場体験を行う。

科学クラブには、実験好き、理科好きな児童が集まり、毎週楽しく活動している。一学期は、音をテーマにしている。この日は、声の振動を使ってプロペラを回す「声コプター」を制作した。理科を専門とした教員に



声でプロペラが回る「声コプター」

よって事象について説明があった後、児童の手で実験が開始される。ただ楽しく実験をするだけでなく、条件を変え、どの条件だと一番実験がうまくいくか研究する。声コプターでは、プロペラの大きさや声の大きさ、高さなどを変え、プロペラがよく回りやすい条件を追究した。今後は、児童一人ひとりが興味をもったテーマを発表するという発展的な活動も行う予定だ。

今年六月一日に田植えを、同月の七日に芋の苗植えを行った。田植えでは、裸足で田んぼの泥の中に入り、自分の手でお米の苗を植える。あまり体験することのできない貴重な体験だ。手や足で泥に触れる時、その感触に最初は戸惑っている児童も多かった。次に畑や田んぼに



土の感触に歓声を上げながら、田植えをした。

芋の苗植えでは、畑に「紅あずま」という品種の苗を植えた。深くに苗を埋めすぎると、成長して、それを収穫することだろう。収穫が待ち遠しい。

電車マナー教室

六月十三日、西武鉄道の方々による「電車マナー教室」が行われた。この日は、一年生と二年生に向けて、各学年にそった内容が展開された。

一年生は、電車が大好きな腹話術の人形であるマイクくんと共に、スライドショーを見ながら電車のマナーについて振り返った。駅から改札入り電車に乗るまでの過程や、乗車時のマナー、緊急時の対処法、電車の種類や工夫、といった幅広い範囲に及ぶ説明があった。最後には、全員で西武鉄道の方々直伝の敬礼を行った。

日々の生活の中に当たり前のようにならなければならない電車。ルールを考え直せる貴重な時間であった。



しっかりとルールを確認できた。